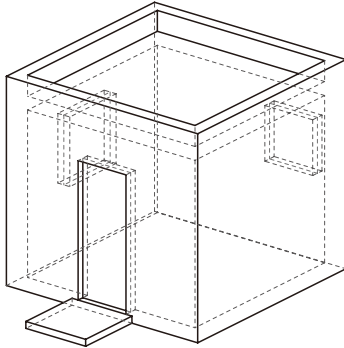


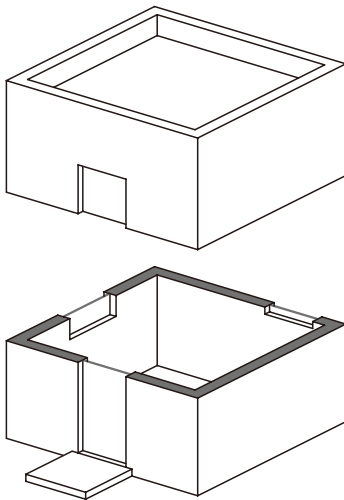
## ● 図面の種類「設計における空間表現の基礎知識」●



左にあるシンプルな建物を題材に、ここでは建築やインテリアの設計で欠かせない平面図、断面図、展開図、天井伏図、立面図の考え方を説明します。

実際の図面がそれぞれどのようなものかについては、テキスト『新しい建築の製図』、『インテリア計画の知識』などで確認しておくようにしてください。

### ◆ 平面図

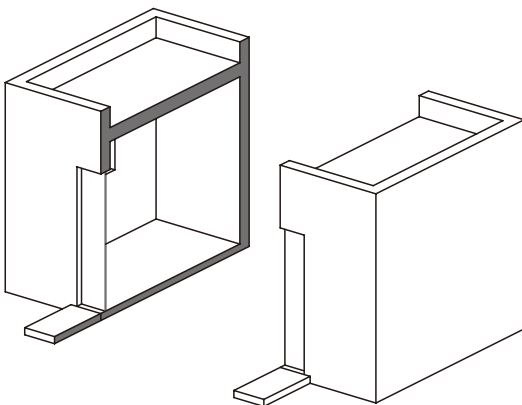


平面図とは、建物のそれぞれの床面(この場合1階床面のみ)から1,000~1,500mm程度の高さにある水平面で建物を切断し、それを真上から見た状態を記号や文字とともに示す図面です。空間を表現する最も大切な図面といえ、描かれる要素は記号として一定の決まりがあり、これを習得して第三者に理解される客観的な図面を描く必要があります。

#### 平面図で表示すべき主要な項目

- ・ 柱、壁、開口部の形状や種類
- ・ 外壁中心間寸法、間仕切壁中心間寸法
- ・ 固定の造り付け家具、設備機器【細線】
- ・ 移動できる家具、什器【細い破線】
- ・ 室名、基準記号、方位、図面名称、縮尺
- ・ 床仕上げ

### ◆ 断面図

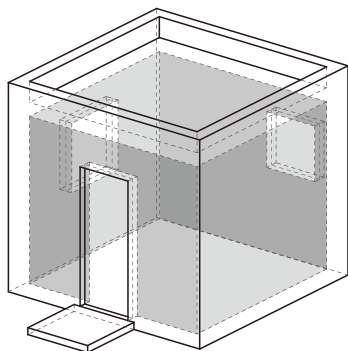


断面図とは、建物を垂直面で切断し、その切り口と奥に見えるもの(見え掛り)で、地面や各階の床、屋根の関係や、階高や天井高などの区間の高さ関係を示した図面です。切断箇所は自由に設定できますが、建物の魅力や特徴の表れる箇所を選び図面にすることが求められます。

#### 断面図で表示すべき主要な項目

- ・ 最高高さ、軒高、階高、床高、天井高、開口部内法高、腰高、屋根勾配、軒の出 など
  - ・ 床、壁、天井、屋根、建具の形状や種類
  - ・ 造り付け家具断面
  - ・ 移動できる家具【細い破線】
  - ・ 室名、基準記号、方位、図面名称、縮尺
  - ・ 壁仕上げ
- (・ 外壁中心間寸法、間仕切壁法)

### ◆展開図



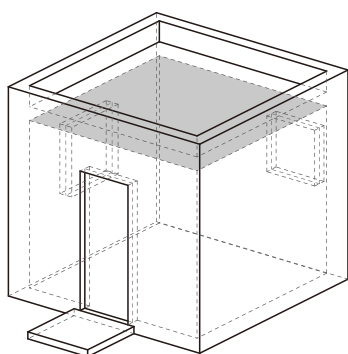
展開図とは、建築物の各室における壁面の形状や仕上げなどを表すために描く図面であり、イメージとしては左図の着色部分になります。ひとつの部屋(室)に対して4面が必要となるのが通常ですが、部屋の形状によってはその特徴を表すために図面数が増えることもあります。

フロア単位で見ると、断面図と似た図面になりますが、展開図では床、壁、天井の仕上げ面を中心に描き、建築物の構造は省略します。原則として、北・東・南・西展開図という風に右回りに描きます。

#### 展開図で表示すべき主要な項目

- ・鉛直に切断した床、壁、天井の切断面
- ・その奥に見える壁や開口部（切断面は太線、見え掛りは細線）
- ・天井高、開口部内法高、腰高の寸法
- ・床、壁、天井、開口部、家具の形状と名称
- ・室名、基準記号、方位、図面名称、縮尺
- ・壁仕上げ材

### ◆天井伏図



天井伏図とは、建築物の各室における天井の形状や仕上げなどを表すために描く図面であり、見上げた天井面を描くのですが、描き方には特徴があります。それは、

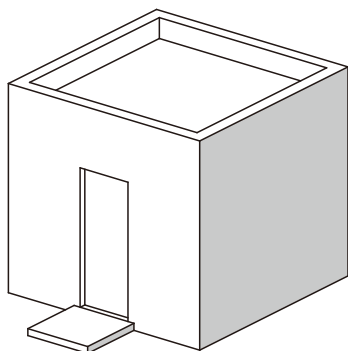
「床に鏡を置いて映した状態で描く」

という方法で、平面図を省略したような図面となることが多いです。そのため、縮尺は原則として平面図と同じにしましょう。

#### 天井伏図で表示すべき主要な項目

- ・天井の形状（切断面は太線、見え掛りは細線）
- ・照明器具
- ・天井換気口、点検口、カーテンボックス等
- ・軒裏、ひさし裏の形状（必要に応じ）
- ・外壁中心間寸法、間仕切壁中心間寸法
- ・室名、基準記号、方位、図面名称、縮尺
- ・天井仕上げ材

### ◆立面図



立面図とは、建物の外観を表す図面です。建物を外部の四方から見て描きます（例：東西南北の四面）。断面図と描き方は類似しますが、寸法線などは記入しないのが一般的です。外観のデザインが示されるので、周辺環境との調和を図る上でも重要です。ファサードとは、道路に面している場合などの立面図のことで、建築の顔となるものです。

#### 立面図で表示すべき主要な項目

- ・外部に見えるもの全て（屋根、外壁、開口部、戸袋、庇、テラス、など）
- ・基準記号、図面名称、縮尺
- ・仕上げ名（必要に応じ）
- ・GL線（地盤線）：極太